

市内介護事業所などで構成され、
研修会の実施などで地域全体の
介護サービスの質の向上に取り組んでいる
「市ケアネットワーク会議」の
お二人に話をうかがいました。

かわちながの 働ライフ

KAWACHINAGANO HATA-LIFE

河内長野市で働く若者の仕事と暮らし

特別編

介護に正解はないからこそ 一人ひとりに合ったケアを

介護支援専門員(ケアマネジャー) 畑口さん
(市ケアネットワーク会議ケアマネ部会)



寺元記念病院内で、12人のケアマネジャーが所属する「てもとケアプランセンター」の左写真、系列の「てもと医療リハビリ病院」で通所リハビリをする様子。左下写真は、市ケアネットワーク会議のケアマネと相談する畑口さん。



取材協力

医療法人登会
てもとケアプランセンター

自立した生活への支援

「出産もあり一度離れていましたが、やはり働きたくて介護業界に帰ってきました」と話すのは、てらもとケアプランセンターでケアマネジャーとして働く畑口さん。手に職をつけようとヘルパー資格を取得し、少しでも困っている高齢者の力になれるならと介護職スタッフとして就職しました。出産を機に退職しましたが、ケアマネ資格を活かし現事業所で子育てをしながら再就職することに。

「脳出血で出かけるのも難しかった人が野球観戦に行っ

たりと、利用者さんに関わってだんだんと元気になり、本人が望む生活・暮らしができるようになったときはうれいです」と話す畑口さん。ケアマネの仕事は生活の意向や困りごとに対して、必要なこととやできること、支援すべきことを見極め、一人ひとりにあったケアプランを作成することです。どの社会資源を活用するかを考え、サービス事業者との調整を行います。

幸福感を感じてもらえるように

「高齢者の方の半分も生きていない私には、どんな人生を歩んでこれたか想像もつ

きません。自分のこれまでの価値観を覆すくらいいろいろな選択肢や考えがあって、ケアマネの仕事は正解がない。そこが大変なところですが、やりがいでもあります」と畑口さん。どうすれば信頼関係を築けるのかを日々考えながら接し、人生の先輩方に教えてもらいながら仕事を進めているそうです。

「今後は家族のイロイロな形を幅広くとらえられるようになりたいです。そして高齢になっても人生の幸福感を感じられるように支援していきたい」と笑顔で話してくれました。

